

H22年度前期 : 授業時間: 火曜日1限

[九州大学]

大学院共通科目: G3011「九大生よ、ビジネスを学ぼう」
と全学教育科目「会社とは何か、起業するとは何かを学ぼう」
の連携講義

[横浜市立大学]

特別講座 Let's Learn Business

- * 九大・カリフォルニア・オフィスと(東京オフィス)
- －九大(箱崎／伊都／大橋／筑紫)
- －横浜市立大学

間の遠隔授業: 2010.4.13～7.27

履修説明

Ver.4(2010.4.13)

岡本秀穂

九州大学・高等教育開発推進センター

E-mail: okamoto@rche.kyushu-u.ac.jp

1. 授業日： 火曜8:40～10:10(九大1限)
2. 単位： 2単位(九大)
3. 授業形態：カリフォルニアオフィス(東京オフィス6回、横浜市大1回)

⇔九大&横浜市大間の遠隔授業が原則

主として九大カリフォルニアオフィス(と東京オフィス、横浜市大)から講義し、九大4キャンパスと横浜市大のいずれかで受講する。

4. 履修届：

1) 九大生(学部生)：

他の専攻科目と同様に、Web上で履修登録を行う。その期間は
4/19～4/23の間である(履修登録の①訂正は5/10～14、
②確認は5/24～28のいずれかの期間)。

2) 九大(大学院生)：

大学院共通教育科目のホームページの「履修申し込み」から登録。

<http://rche.kyushu-u.ac.jp/%7Ein-kyotsu/index.html>

なお、第1回(コマ)目の講義に出席に間に合わなかった場合、第2回(コマ)目からの出席でも可能。

3) 横浜市立大学生：

通常の横浜市立大の履修申請をWeb上で行う。

Tony Chin先生にブルーの聴講カードを提出する。

5. レポート提出と成績評価(1)

1)内容: 次の I と II をまとめて毎回、提出する。

I : 授業(講師)評価:

この授業を何点と評価しますか。評価のポイントはあなたがこの授業に期待したことに応えてくれているかどうかということに基づいてください。

5. ひじょうによかった
4. かなりよかった
3. 特によいとも悪いともいえない、普通
2. あまり関心がもてなかった
1. まったく意味がなかった

なぜ上記のような採点をしたかを説明 (必ず記入のこと)。

II : 授業レポート:

[1]通常、講師からは課題レポートが課せられる。

九大での評価基準は次のとおり、

- ・課題に対応した回答: 7-8点/10点
- ・内容が秀逸か、説得力がある回答: 8-10点/10点

[2]課題レポートがない場合:

内容は、講義の感想、講師へのコメント・質問などを提出する。

ただし、九大では、“面白かった”という単なる感想文や、“頑張ろうと思う”のような決意文だけでは不足である。採点基準は次のとおり。

- ・講義概要(まとめ)のみ: 4-6点/10点
- ・講義内容に関する自分の意見の開陳: 7-9点/10点
- ・講義内容に触発された秀逸な自身の意見提案: 9-10点/10点

<授業評価とレポートのフォーマット例(内容の参考例ではなく、形式例である)>

講義日 = 第2回2009/4/21

レポート欄 = 授業評価: 4 (Aさん)

考え方の違い等はみられたが、自身と大きく異なった考えを聞くことができ非常に参考になった。スライド、遠隔授業の流れ等非常にスムーズであった。

(Bさん)私が、今回講義を聞いて思ったことがあります。それは、派遣に関することです。(中略)私が知っている業種つまり製造業とは先生の言っている派遣の現状とは少なくとも違うと思います。

まず、製造業で派遣されている人は特別秀でた技術を持っていません。私は学部時代、人材派遣の人が大半のマンションで暮らしていました。その人たちとたまに話して、行っている仕事内容を聞くとしたら単純作業の繰り返しで特別なスキルなどまったく必要となく、派遣先の会社も派遣会社もほとんど研修を行っていないと聞きました。

なおかつ、僕が派遣の人たちを見て思ったことは、生きている感じのオーラが正直まったく感じられませんでした。世界情勢が悪くなり、派遣切りが始まり僕が住んでいる地域・マンションから一斉になくなりました。ここまで派遣は厳しいか、会社・社会にとって派遣はここまで都合がよい存在なのかということを強く思ったことを今でも鮮明に覚えています。

先生は、派遣で行っている人はスキルがあるので条件のよい会社に移り、また新しいスキルを手に入れスキルアップをしていると述べられましたが、僕が知っている人たちはスキルがなく、当然他の会社にも移れない、まして今勤めている会社もこのまま働き続けられるかという厳しい現実がほとんどでした。

小泉改革で今までは特別なスキルを持っている人、派遣を行える職種は規制で狭められていましたが、改革後規制が緩まり今までは禁止されていた製造業まで幅を広げてしまったことが僕は失敗だと以前から思っていました。

先生の話の中でぶら下がり正社員の存在を知り、6割の人材を削減したいという事実を知り、確かに流動的にすることでぶら下がり組が減り、会社や社員にとって良いことだと十分理解できます⁴。しかしだからといって派遣を使う今の日本の派遣の仕組みは間違っていると思います。

5. レポート提出と成績評価(2:続き)

2) 提出先と期限:

A. 九大生用:

1) 提出期限: 講義終了後、**1週間以内(厳守; これ以外は、システム上で受理しない)**。

2) 提出先: **<学部学生と大学院生: 共通>**

九州大学のホームページで

[教育]→[大学院: 共通教育]→[九大生よ、ビジネスを学ぼう]→[レポート提出フォーム]
に記入後、送信すること(送信エラーや文字化けを避けるために、別紙
にテキスト文で作成後、それをcopy & pasteすること)。

<http://mail.rche.kyushu-u.ac.jp/%7Ein-kyotsu/>

3) 字数制限: 800字以内(一昨年、昨年と比べて半減させた)。

★各レポートには、所属、氏名、学年を必ず記入すること。

4) レポートは九大側で採点后、各講師にレポートを送付。**毎回のレポート点を出席点と合算。**

B. 横浜市大生用:

1) レポートの形式・評価・締め切りは、九州大学と同じ。

2) メール本文に直接書き込み、最後に必ず次の情報を最後に追加すること。

<横浜市立大学 コース名 学年 氏名>

レポートは、winhawkman+kyu@gmail.com宛にメールで課題を送信すること。

6. 質問・要望:

1) <講演後の質問>は大歓迎:

15-20分間程度、確保する予定だが、講師によっては時間が不足する恐れがあるので、次のルールを適用したい。

①質問順序の基本:

- a. 聴講者数が多いキャンパスを優先して、毎回、ローテーションで回す。
- b. 各キャンパスは1名ずつの質問とし、これを再度、繰り返し、質問者は最大2人／キャンパスとする。
- c. 次に、残りのサイトに回して、質問を受け付ける。

②質問の要領:

<基本> 質問の要旨を要領よく説明する。その時間制限は、30秒から1分以下とする。

<補足> (1)講師の講義内容を要約して説明し、(2)それに対する自分の意見を長々と開陳して、(3)最後に、「～についてどう考えるか」と講師に質問する方式は、ほかの質問者も多数、存在することを念頭に置いて、止める。上記(3)に準じた質問を心がける。

6. 質問・要望(続き):

2) <質問>

①**講義内容**に関する後日での質問:[九大・横浜市立大学共通]

松尾特任教授の

matsuo-m@sbcglobal.net

アドレス宛にメールで送信する。

②履修登録、遠隔授業などの授業形式、レポートの採点評価などの

受講に関する質問:[九大用]

okamoto@rche.kyushu-u.ac.jp

の岡本宛にメールで送信する。

③同上(=②)の質問:[横浜市立大学用]

winhawkman+kyu@gmail.com のTony Chin先生宛にメール

で送信する。

3) <要望:[九大生用]>

九州大学のホームページで、次のメニューを選択。

[教育]→[大学院:共通教育]→[ご意見・ご要望]

から送信(従来どおり)。